

移動販売車がゆく

「トンカラリンと」と、なじみ深かったトントン音頭で地域をまわっていた農協の移動販売車が消えて約1年。上田地区ではこの廃止に加え、Aコープの撤退もありました。今、実に市民の3人に1人が65歳以上に。地域の商店が減少や閉店してしまい、日用品の買い物が困難となっているお年寄りも増えていきます。

市は7月から販売車運行の実証実験を始めました。令和5年3月末まで、まずは上田地区19か所で、週に1度巡回することからやってみます。日本郵便(株)との包括連携協定に基づき、この事業を(株)郵便局物販サービスに委託。越後上田郵便局に、冷蔵・冷凍設備を備えた商品倉庫を新設。同社と連携するコンビニエンスストア「ローソン」と地元スーパー「はりまや」が共同事業として参画、加えて「上田ふるさと協議会」の絶大な協力もあって実現したものです。このような体制でローソンが関わるのは全国初だといえます。今後は、採算性や他地域への拡大は可能か

など、さまざまな検討を行います。

一方で、これは単なる買い物支援ではないことを忘れてはなりません。家から出て人と語らう楽しみ。認知症や介護予防、見守りの視点なども合わせ持つ。この事業は、高齢者の健康維持につながるとうと市が取り組んでいる「南魚沼市医療のまちづくり」の一環でもあるのです。採算性だけで片付けられない。その需要は確実に増えるはずですが、そもそも継続が困難だから民間が手を引いてゆく。ましてや雪国。これは、公として地域医療を守ることと同意語の、まさに挑戦といえる事業だと思っています。

地方創生は並大抵ではありませんが、この事業の販売員には県外の若い社員お二人が。7月4日の出発式では「御用聞きで期待に応えたい！」と意気に感ずるあいさつを。スピーカーから流れる変わらない音頭の配慮に粋さも。「トンカラリンと、ひと踊り♪」そうあってほしい。

シリーズ 第112回

国際大学留学生

お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

スリランカ民主社会主義共和国 サジャーニ アタパットゥさん



私の国はこんなところ

スリランカは「インド洋の真珠」と称される小さな島国です。宝石、紅茶、スパイス、クリケット、美しいビーチなどが有名です。夕焼けの海岸沿いで休息していると、まるで天国にいるかのような平和な気持ちになります。ラフティング、美しいサンゴ礁でのダイビング、サーフィンは人気のアクティビティであるとともに、外国人投資家に好意的なビジネス環境をもたらしています。

スリランカ人のおもてなしの心と親しみやすさは私の誇りです。



南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼の雪の美しさや寒さを人生で初めて体験できたことがいい思い出です。初雪の日には雪の結晶に触り、うれしくて飛び跳ねたり歌ったりと、童心にかえりました。また、家族と一緒にスキーをしたことも楽しかったです。雪に覆われた山々に、子どものころに読んだおとぎ話を思い出しました。南魚沼の冬が大好きです。

編集後記

毎日本当に暑い日が続いています。月並みですが、熱中症にはくれぐれも注意しましょう。こまめな水分補給や十分な睡眠、栄養バランスを考えた食事など、普段からの体調管理が予防につながります。私は大好きなスイカをたくさん食べて夏を乗り切りたいと思います。(Y.T)

今月の表紙

7月14日(休)~16日(出)の3日間、牧之通りを主会場に、塩沢まつり(住吉神社例大祭)が行われました。3年ぶりのまつりの開催に、牧之通りは大勢の人でにぎわい、笑顔と活気にあふれていました。

市民の動き 令和4年6月末日現在 ()は対前月比

●人口 54,189人(-154) / 男26,524人(-69) 女27,665人(-85) ●世帯数 20,142戸(-89)